

展覧会

SAMURAI FOTO—日本の現代写真の匠たち

2020年9月24日—2020年11月22日

エルータ現代アート美術館では日本の現代写真の匠たちによる作品を展示します。蓮見博明、吉田繁、佐藤素子、佐々木浩二、原田浩司、エバレット・ケネディ・ブラウン (SAMURAI FOTO)の6名の作家による静謐な自然が放つ瞑想的な風景作品をご覧ください。

日本の伝統的な美学が内在する自然、そして、デジタル技術とアナログ技術の融合という新しい技法や長い歴史によって育まれてきた繊細な和紙プリントをご堪能ください。

SAMURAI FOTOは日本のアート写真を世界に知ってもらおうと2012年に設立されました。アジア、ヨーロッパ、米国での展覧会やアートフェアに頻繁に参加しており、モスクワで2回作品を展示しています。そして、これからあなたが見ようとしている写真作品は、エルータ美術館のために特別に選ばれた作品群でロシアで初めて展示されるものです。

SAMURAI FOTOのメンバーの作品はさまざまなテーマやジャンルに広がっています。けれども、彼らの創造的な世界は日本の自然に影響されているように感じられます。満開の桜や紅葉を見たり、季節の変わり目を観察したり、満月を見たりするための特別な儀式があり、それらは日本の文学にも反映されています。自然との共生への想いは日本全国に見られる無数の庭園にも浸透しています。雪の降る北国や北海道の厳粛で簡潔な風景から、亜熱帯の楽園まで、北から南に何マイルにも渡って変化に富んだ気候帯が広がっています。そして、その自然との共生への想いは日本の古典的な伝統芸術から現代の風景写真に現われ、それが高い品質を保たせているのでしょう。実際、6名の作品は独自のスタイルを持っているにもかかわらず（これらはそれぞれについての追加のテキストでさらに説明されています）、展示全体には日本の伝統的な美学の精神が染み込んでいます。

プロジェクトの技術的な側面も同様に興味深いものです。日本人はデジタル写真の最先端にいますが、SAMURAI FOTOのメンバーたちはさらに、湿板やプラチナプリント、コロタイプなどのオルタナティブな技術と最先端のデジタル技術と融合させた新技法を使っています。また、伝統的な版画に使われてきた手漉き和紙をデジタル画像の印刷にも使っていることで有名です。ここで紹介する作品は、古代の伝統と現代技術の国としての日本を鑑賞者に感じさせることでしょう。しかし、さらに重要なのは、プロジェクトの瞑想的な性質です。どの作品もきっと、あなたが自然と繋がって心に大きな変化をもたらす力を秘めています。